



3学期、ラストスパートです。

2月16日には、学習発表会を実施し、1年間の学びの成果を保護者の皆様に見ていただきました。1年生は、「思い出発表会」と題して、入学してからできるようになったことを、算数や国語、なわとび、虫取りなど、自分が発表したいことを決めて取り組みました。6年生は、将来の夢や、小学校での一番の思い出、自分の好きな物や事について発表しました。1年生と6年生を見比べると、6年間の大きな成長、人格形成に驚くばかりです。小学校生活の6年間の重要性をひしひしと感じました。2月号では、学校の1年間を振り返っての成果と、教育業界の動向から見た、来年度の力点についてご報告します。(本内容は、PTA新旧評議員会、第5回学校運営協議会で説明させていただいた内容と同じものになります。)

【学校のR5年度の成果（課題解決型学習）】

学校ではこの1年間、算数科の授業改善研究、ほめ言葉のシャワー等、様々な取組をしてきましたが、今回は6年生が参加した「おかやま学びたい賞」についてご報告します。

岡山県下の小・中学校、あわせて96校が学びたい賞にエントリーした中、本校は「奨励賞」という名誉ある賞を受賞することができました。この取り組みは、課題を「ジブンゴト」と考え、解決策を考え、更には考えるだけでなく「アウトプット」することを目的とした県教育庁主催の活動です。

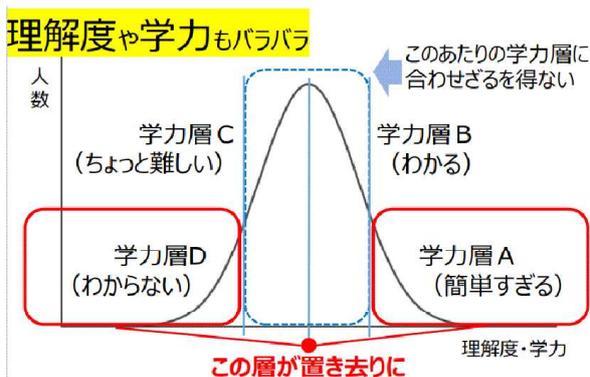
6年生は、「自分たちが住んでいる鴨方には、魅力がたくさんあるにも関わらず、年々児童が減っている。地域を活性化するためにマルシェを開催したい。」と考え、「鴨西マルシェ」を企画・実行しました。

もちろん、この取組は、「鴨西マルシェ」がゴールでも、おかやま学びたい賞で賞を受賞することがゴールでもなく、「課題解決型学習」に挑戦することで、子どもたちの「調べる力」「コミュニケーション力」「調整力」「実行力」等、様々な力を育てることを目的に実施しています。

鴨西では、今年度、5年生・6年生による課題解決型学習への取組が、子どもの成長につながっていると確かな手応えがありました。次年度以降も引き続き、「ジブンゴト」「アウトプット」を大切に、課題解決型学習に取り組んでいきたいと思えます。

【教育業界の動向 ①自由進度学習】

来年度の学校の経営方針を考えるにあたり、教育業界の動向について、2点ご報告します。



【図1：文科省資料より引用】



【図2：鹿児島市立星峯小学校資料より引用】

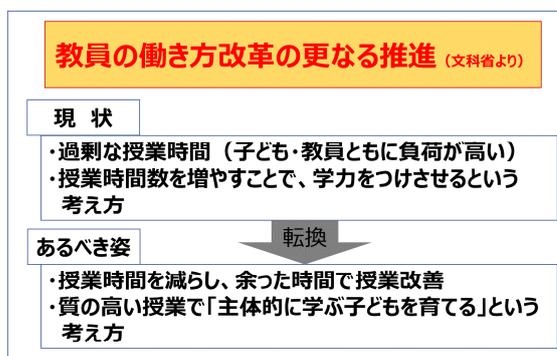
一つ目は、自由進度学習についてです。

図1に示すように、児童の学力は、理解度や学力もバラバラなのにも関わらず、従来の一斉指導型の授業では中間層に合わせた授業となり、置き去りになる層があると言われています。これを解決するには、一斉指導型の授業から、自由進度学習へのシフトが必要です。例えば、図2に示すように、登山を例にすると、ゴールは山頂にたどり着くことなのですが、登り方やコースはいろいろで、「頂上まで一気に登ってから、頂上で休憩するもの」もあれば、「ゆっくり登って、景色や樹木を楽しみながら登るもの」もいるように、学び方もいろいろで、学び方自体を自己選択・自己決定できるべきという、学習方法です。

【教育業界の動向 ②働き方改革】

二つ目は、教員の働き方改革の更なる推進です。

現状は、過剰な授業時間で、子ども、教員ともに負荷の高い状況だと言われています。これは、授業時間数を増やすことで、「子どもに学力をつけさせる」という考え方に基づいています。あるべき姿は、授業時間を減らし、余った時間で、教員は授業改善に取り組み、質の高い授業を行うことで、「主体的に学ぶ子どもを育てる」という考え方です。すなわち、学び方を教えることが重要であるということです。



【令和6年度の学校経営方針（方向性）】

令和6年度の学校経営計画立案に際して、令和5年度に手応えのあった取組に加えて、このような業界動向をふまえて検討を進めていきたいと考えています。

4月のPTA総会、5月の学校運営協議会にて、令和6年度の学校経営方針をご説明する予定です。で、よろしくお願いします。

「2050年に活躍している人は、どんな人?」、今年の卒業式に、校長から6年生に問いかけるつもりです。私は、

- ・自己肯定感が高い
- ・考えて行動できる
- ・アイデアを形にできる
- ・自ら考えて発信できる
- ・情報を早く正確に得られる
- ・必要な情報を選べる
- ・人と関わる力がある
- ・物事の仕組みを知っている

だと思っています。このような子どもを育てるために、次年度の学校経営方針を検討していきます。